

村グラウンドゴルフ協会が ボランティアでグラウンド整備

お世話になっているグラウンドに恩返し

村グラウンドゴルフ協会（今野義實会長）は9月5日、日頃お世話になっている村民グラウンドに恩返しをしようと、ボランティアでグラウンドの整備を行いました。

整備は会員約60人が総出で行われ、会員らは日差しが照りつける熱さの中、丁寧に草をむしったり、地ならしをしたりしてグラウンドをきれいにしていました。



▲草むしりをするグラウンドゴルフ協会のみなさん



▲募金を手渡す大内さん（右）

村体育協会（赤石澤正信会長）は、今年8月にいったてスポーツ公園で行われた「スポーツカーニバルベラーノ2002」で集まった善意の募金を9月6日、村ボランティア連絡協議会（菅野栄子会長）に手渡しました。この日はボランティア連絡協議会の総会が行われており、総会の席で体育協会副会長の
大内雄治さん（菅野）が菅野会長に募金28,771円を手渡しました。この募金はボランティア協会の行う事業費に活用されます。

体育協会から募金を寄付

みんなの心をボランティアに

こころのぽけっと

「つつみ隠さず の行政へ」

不可能に近いものを可能にした時ほど、感激し、達成感にひた浸れることはありません。

私も何度か、そのような経験をさせてもらっています。その最たることは、2年前の「いいたてホーム増床」です。国、

県のワクや、他市町のカラムの中で、ほとんど不可能の状態から努力した結果、20床増床が認められたのでした。忘れもしない12月28日、仕事納めの1時間前、県よりOKの通知が来た時は「やった！」と飛び上がらんばかりの喜びでした。

今、村ではさらに「30床増床」に向け、国県に猛烈な働きかけをしています。しかし、相馬地方ではまだ小高町で施設を持っていませんし、相双地方

の市町村では、増床計画が目白押しです。まして、飯館は2年前に20床増床しています。ですからかなり厳しい状況です。

このような状況ですから、これまでの行政は結果がはっきりするまで住民に発表しませんでした。もしダメになると住民に批判されるからです。

でも、よい結果のみ知らせるより、村で進めていること、努力していること、困っていることも全て知ってもらった方が、住民の理解が深まると思うのです。

「OK」も「ダメ」の時もあります。ダメの時は「ほら 見る」ではなく、その努力を称えてもらえれば、これからまたがんばるのではないでしょう。

平成14年9月30日

飯館村長 菅野 典雄